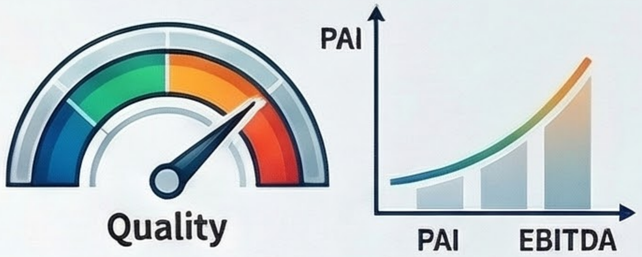
旭化成：経営を牽引する「最強の知財戦略」の全貌

「三位一体」の基本方針

「二本柱」の組織体制



量より質の「知財価値」の見える化

知財創出力（PAI）とEBITDAの相関分析を行い、投資家へ定量的な価値を開示する。

価値創造を加速させる「2つの武器」

IPランドスケープ（IPL）

競合分析、新事業創出、M&A時のシナジー検証により、経営の「気付き」

TBCプロジェクトによる直接収益化

自社技術をパートナーへライセンス供与し、資産を抑えて早期収益化を図る。

TBCプロジェクトによる直接収益化

自社技術をパートナーへライセンス供与し、資産を抑えて早期収益化を図る。

国内特許の約65%が高い活用率を実現

厳選された特許を確実に事業やライセンスへ繋げ、高い実効性を誇る。

知財戦略の成果と目標

	2021年度実績	2030年度目標
GG10関連有効特許件数の創合	30%超	50%超
特許保有件数（合計）	約14,600件（2024年）	-